

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 戸倉中 学校 学級数 11

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

進んで学び 心豊かに 高め合う生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

(1) 学習支援ボランティア（函館大学）の活用

(2) 取組のきっかけ・位置付け

本校の校内研究の研究主題「基礎的・基本的な知識・技能をそなえ、自ら学ぶ意欲や手立てをもった生徒の育成」と関連し、生徒の学力向上を図る一助として取り組まれている。昨年度、教育大学（函館校）の学習ボランティアを活用できた。しかし、大学との本校では距離的に遠く、希望する大学生が少ない実情を把握できた。

そこで、本校の近くにある函館大学へ協力をお願いし、教職を志すまた興味をもつ学生に来てもらい数学を教えてもらっている。

(3) 取組の方法

担当は、教務部研究担当が窓口となっている。実施学年は2年と3年を対象に、それぞれ月に1～2回のペースで1学期は実施してきた。時間帯は、放課後1時間程度である。対象生徒は、各学年15～20名程度である。1学期は、教師側から特に数学の不得意な生徒に声かけ、参加させている。

本校の数学科の方で、プリント教材を準備し、それを取り組ませ学習支援ボランティアの生徒が教えるスタイルである。

取組の成果と課題等

- **取組の成果～** 学習支援ボランティア（函館大学）の活用
（成果）函館大学の協力のもと、数学の学習を希望する生徒に行ってきた。大学生一人で1，2人の生徒を支援するようなスタイルで進めることができ、数学を不得意とする子供たちにとっては、いつも以上に質問をしたり、解き方をじっくり見つめ直す子どもが多かった。受講した生徒の中には、このボランティアをきっかけに数学のテストの点数を伸ばした生徒も出てきた。生徒の感想やアンケートをみても、「一生懸命取り組めた」「じっくり取り組めた」などの答えが多く、受講した生徒にとっては、効果的な場であったと考える。
- **教育課程検証の方法**
- ア **量的な検証**
- ・週ごとの時間割の作成とともに、時数の進行状況を把握する。（教務）
 - ・月時数運営予定表の作成をもとに、校務運営委員会での確認
（管理職・校務運営委）
- イ **質的な検証**
- ・学校評価の中間評価（1学期末）の実施による把握
今年度は、1学期末に教職員による中間評価（学校評価）を実施した。項目はかなり絞られ、今年度の教育課程に関わる内容ばかりではなかったが、新学習指導要領完全実施により、新しい教育課程がスタートしたこともあり、昨年度と比べ変更した点を中心に、1学期末に教職員から意見を出してもらった。いくつか例をあげると、
 - (1)春の「家庭訪問」を全学年中止した点について
 - (2)修学旅行の日程について（次年度以降のコースも含む）
 - (3)時数と行事などの関連について（中体連陸上・総合大会と応援体制など）
 - (4)学習パワーウィークの取組（授業や放課後）の取り組み
 - (5)学習支援ボランティア（函館大学の協力）の取り組みについてなどである。中間評価をたたき台にし、年度末の学校評価を行い、次年度へつなげていく方向である。
 - ・「全国学力・学習状況調査」による実態の把握
昨年度の同調査をもとに、本年度の研究主題・副主題を作成し、校内研究を通じ、授業の質的改善を目指している。また、今年度の同調査の結果も、把握し残り期間の実践に役立てるように努めている。